

水稲・大豆 栽培情報 7月号

令和8年7月22日

JA みづま

久留米普及指導センター

○水稲

1. 生育概況と今後の管理

- ・田植えは6/21頃を中心に行われ、全体的に生育は順調ですが、一部ジャンボタニシの食害も散見されます。
- ・6月下旬～7月上旬にかけての大雨でオーバーフローがあったほ場は、初期除草剤の効果が十分に得られていない場合があるため、雑草の発生が多いほ場は下表を参考に中後期除草剤を散布しましょう。また、7/8の梅雨明け以降、気温が高く藻類の発生が多くなっています。降雨の予報がない場合は、一度落水する等対策しましょう。
- ・中干しは分けつ数が**18～20本/株**程度で開始し、7月末を目途に完了しましょう。

2. 雑草防除（中後期除草剤）

対象 雑草	除草剤	10a 使用量	散布時期	備考
ヒエ	クリンチャー EW	落水散布または湛水散布 100ml/水 25～100L	移植後 20 日～ ノビエ 6 葉期まで （収穫 30 日前まで）	展着剤を <u>加用する</u> 雑草の茎葉によく付着 するよう散布
	クリンチャー 1 キロ粒剤	湛水散布 1.5kg	移植後 25 日～ ノビエ 5 葉期まで （収穫 30 日前まで）	1.0kg 散布：移植後 7 日～ノビエ 4 葉期ま で（収穫 30 日前まで）
ヒエ ・ 広葉 雑 草	クリンチャー バス ME 液剤	落水散布または ごく浅く湛水して散布 1,000ml/水 70～100L	移植後 15 日～ ノビエ 5 葉期まで （収穫 50 日前まで）	展着剤は <u>加用しない</u> 雑草の茎葉によく付着 するよう散布
	ウィードコア 1 キロ粒剤	湛水散布 1 kg	移植後 7 日～ ノビエ 4 葉期まで （収穫 60 日前まで）	田面が露出しないよう 湛水状態を保ち 7 日間 は落水しない
	ロイヤント 乳剤	落水散布または ごく浅く湛水して散布 200ml/水 25～100L	移植後 20 日～ ノビエ 5 葉期まで （収穫 45 日前まで）	散布後 3 日以内に入水 すると効果が高まる

○農薬の使用量、使用時期は暦を参照してください

○農薬のラベルに記載されている有効期限及び登録内容を確認して散布しましょう

○農薬の隣接作物、宅地への飛散を防止しましょう

3. 病害虫防除

- 海外飛来性害虫のウンカ類、コブノメイガは、県内に6月21日から断続的に飛来があったと推定されています。今後、高温で経過する予報であり、発生に適した条件が続くと見込まれるため、下表を参考に防除を行いましょう。
- カメムシ類の越冬量が多く、多発が懸念されます。対策として水稻の出穂14日前までに、畦畔の除草を実施し、カメムシの発生源をなくしましょう。出穂直前での除草では、雑草に生息していたカメムシを水稻へ追いやることになるので注意しましょう。

○夢一献、ヒノヒカリ、ヒヨクモチ

防除時期 (目安)	剤型	農薬名、希釈倍数・散布量
8月 中下旬	液剤	(ウンカ類幼虫、コブノメイガ、紋枯病) オーケストラロムダンモンカットエアー ：1,000 倍
	粉剤	(ウンカ類幼虫、コブノメイガ、紋枯病) オーケストラロムダンモンカット粉剤 DL ：3～4 kg/10a

※液剤を使用する際の散布水量は、10a当たり100リットルです。

※ウンカ類への効果を高めるため、防除作業は湛水状態で行います。

- 病害虫発生状況については適宜更新されていますので、下記のサイトを活用ください。
「福岡県病害虫防除所ホームページ」

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/fukuoka-bouzyosyo-yosatu.html>

4. 穂肥 ※葉色が濃い、草丈の高い圃場は施肥量を減らす。

品種	平年 出穂期	第1回目穂肥施用時期		10a当たり 施肥量 (kg)	
		出穂前日数 (穂肥施用時期の目安)	幼穂長 mm	1回目	2回目
夢一献	8/25頃	20日前 (8/5頃)	2～3	20	15
ヒノヒカリ	8/26頃	18日前 (8/8頃)	3～5	20	なし
ヒヨクモチ	9/6頃	20日前 (8/16頃)	2～3	20	15

※穂肥はNK2号又はちくごのめぐみ444を使用。

第2回目穂肥の施用日は、第1回目穂肥の7～10日後。

中稲一発、エムコート020晩生を使用している場合は、基本的に穂肥は不要。



○大豆

播種は7月9日頃から開始され、播種作業は順調に進んでいます。ほ場水分もあったことから、全体的に出芽は良好です。まだ播種ができていない場合は、乾燥による出芽不良や生育量不足で低収となる恐れがあるため、早急に播種を行いましょう。

今後は中耕・培土の実施ならびに雑草が多発している圃場は草種に合わせて中期除草剤を散布しましょう。

1. 雑草防除（農薬の使用量等はこよみ参照のこと）

雑草が多いほ場は、中耕・培土と除草剤を組み合わせで対応します。

<広葉雑草が多いほ場>

農薬名	使用時期	10a 当たり使用量	注意事項
パワー ガイザー 液剤	出芽直前～3 葉期まで （雑草発生始期～2 葉期）	200～300mℓ （希釈水量 100ℓ）	・ホオズキ類に効果高い、またアサガ オ対策 ※一時的に黄化などの薬害が生じる ことがある
大豆バサ グラン 液剤	大豆2葉期～開花前 （雑草の生育初期～6葉期） ただし収穫 45 日前まで	100～150mℓ （希釈水量 100ℓ）	・タデ類、カヤツリグサ科に効果高い ※気温が高い日中の散布は大豆への 薬害を助長する

<イネ科雑草が多いほ場>

薬剤名	使用時期	10a 当たり使用量	備考
ポルト フロアブル	雑草生育期 （イネ科雑草 3～10 葉期） ただし収穫 30 日前まで	200～300mℓ （希釈水量 50～100ℓ）	中耕・培土後に散布すると 長期的に防除できる ※スズメノカタビラを除く



（除草剤が有効である大きさの限度目安）

2. 乾燥対策

- ・出芽後は**本暗渠の栓を閉める**と効果的です。

（大雨が予想される場合は、事前に暗渠栓を開けるなど臨機応変に対応する。）

- ・大豆は、開花始めから莢実の伸長肥大期までが、乾燥に最も弱い時期です。

特にこの時期は注意し、必要に応じて畝間かん水を実施しましょう。

※畝間かん水のタイミングは、晴天が7日位続き、畝間の土壌表面が白乾し始めた頃。

かん水の量は、走らせる程度。夕方～夜間に行う。